

第一回 DTM 講座

~DTM をするための知識~

●講座について

この講座では、DTM を始めるための基礎知識を教えていきたくと思っています。講座は4～5回程度行う予定です。

●DTM ってなんだろう

DTM は“デスクトップミュージック(Desk Top Music)”の略で、パソコンを使って音楽制作をすることを言います。長所としては楽器が弾けなくても、パソコンの画面上の譜面を置いていけば、演奏可能となることや、楽器が弾ける人でも自分のパート以外をパソコンに演奏させ演奏が楽しめること。自分の演奏をパソコンに記録し、記録したデータを容易に修正することが可能なこと。一般的な「楽器」という定義にとらわれない音を生み出すことも可能である。

しかしながら初心者でも楽譜とかが楽器などの音楽の知識がないけど大丈夫なのか？と不安になるかもしれませんが、作曲に関しては感覚でとらえることが多く、知識は知っているとも便利になる程度なので、心配しなくても大丈夫です。そのためにこの講座があるのです！

●DTM に必要なもの

パソコンを使って音楽制作ってどうするの？…と疑問に思うかもしれません。それではDTM に最低限必要なものを出していきましょう。

・PC

- ・音を聞くもの（スピーカー/ヘッドホン）
- ・音を鳴らすもの（ソフト）

の三つですこれがあれば音はならせるでしょう。

これらを詳しく言うとすれば、**PC** は DTM の定義上何よりの重要機材であるそして最低限使いたいソフトや機材の推奨スペックにクリアしたものを買おう。**スピーカー/ヘッドホン** は音楽制作で音を聞かなくてはならないものです。できるのであれば「リスニング用」の物ではなく「モニタリング用」といって正しい音を聞くためのスピーカー/ヘッドホンが好ましいです。次にソフトです、**DAW**（デジタル・オーディオ・ワークステーション）と言って音楽制作をするために必要なものがセットになっているソフトでこれがあれば曲が一通りできてしまうものがあります。そのほかにもシーケンサーと言って演奏データを再生することで自動演奏を行うことを目的としたものなどもあります。

次にあったら便利なものをあげてみたいと思います

- ・オーディオ・インターフェース
- ・MIDI キーボード
- ・MIDI コントローラー

などがあります。これらも簡単に説明していきましょう。

オーディオ・インターフェース - これはいわば PC の音の出入り口で

MIDI キーボード - 音源を鍵盤で演奏・コントロールするもので鍵盤のリアルタイム演奏をしない人でも音の確認や打ち込みをするときに使うことで作業効率が向上するため持っていて損はないと思います。

MIDI コントローラー - 鍵盤を持たないものも多く DAW ソフトを客観的にコントロールすることができる。こちらと同じく持っていれば作業効率が上がるが持っていなくても大丈夫というものです。

※MIDI (電子楽器デジタルインターフェース) とは

電子楽器の演奏データを機器間でデジタル転送するためのもので簡単にいえば楽譜データみたいなものです。

●DTM・DAW ソフトの紹介

・ FL Studio

STUDIO は単独で使用可能ですが、FL STUDIO 自身が VSTi/DXi としても動作します。さらには ReWire (ホスト/クライアント) にも対応しているので、ACID をはじめとする他の DAW ソフトと連動して、FL STUDIO を膨大な音源モジュールとしても使用可能です。FL STUDIO 単体でトラック制作を完結させるのもよし、普段お使いの DAW のサポートツールやループ素材制作専用ツールとして使うのもよいでしょう。頭の中の音楽を具現化するには、おそらく現在最も速いツールでしょう。

引用：フックアップ FL Studio 製品紹介ページ

・ Cubase

作曲、レコーディング、編集、ミキシング、プロデュースなど、あらゆる作業において膨大な機能にさらにアクセスしやすく直感的に操作できる。最高のサウンドクオリティ、直感的な操作性、そして作曲、レコーディング、編集、ミキシングの為に豊富なツールを高度に統合しています。

引用：STEINBERG Cubase 製品紹介ページ

・ sonar

現代のミュージック・シーンで期待される洗練された音楽を創ることができるツールを網羅し、ワールドクラスのインストゥルメントやエフェクトはもちろん、アナログ・モデリングによるコンプレッサーと EQ、チューブサチュレーションが搭載された Pro Channel コンソールが追加されています。また新しく設計されたユーザー・インターフェースにより、今まで以上に、直感的で自由度の高い音楽制作を実現します。音楽制作のすべての環境を手に入れたい方に最適のオールインワン・ソリューションです。

引用：cakewalk sonar 製品紹介ページ

・ Reason

Reason ラックには、サンプラー、アナログ・シンセ、グレインテーブル・シンセ、ボコーダー、ミキサー、ドラム・マシン、アルペジエーター、コンプレッサー、EQ、エフェクトなど、必要となるであろうギアがすべて収められています。Reason は自動的にデバイス間の接続を行います。ラックを裏返してまるでパッチ・シンセを操るかのようルーティングを自在にカスタマイズすることができます。]

引用：propellerheads reason 製品紹介ページ

・ Live

作曲、ソングライティング、レコーディング、プロダクション、リミックス、ライブ演奏に幅広くご利用いただけるツールです。ノンリニアで直感的なワークフロー、パワフルなリアルタイム編集、フレキシブルなパフォーマンス・オプションにより、Live は、ユニークなスタジオ・ツール、そして、安心できるライブ演奏のパートナーとして使用できます。Live は「音楽制作ソフトウェアを使いたい」のではなく「音楽をつくりたい」方にぴったりのソフトウェアです。

引用：Ableton Live 製品紹介ページ

DTM・DAW ソフトは発売時期から1年～2年経つと、バージョンアップがある可能性の頃になります。メーカーにより事情が違うので年数はマチマチですが、購入後にしばらくしてバージョンアップという事はよくある。(無償バージョンアップ)がある期限なら良いが、切れたばかりだとバージョンアップするのに又お金が必要になるので気をつけた方が良いでしょう。

これらのソフトは大体3～8万当たりの金額になってしまうのでなかなか手が出せないと思います。そんな方でも安心なものがあります。それは先ほど紹介したオーディオ・インターフェースやMIDI キーボードにセットでついてくるソフトがあります。オマケの体験版などとは訳が違います。初心者といわず、そこそこ使っている人でも、おそらくこれで十分というほどの機能があり、保存ができないとか、使える期限があるといった制限は一切ないのです。では版と何が違うかというと、製品版にある機能がいくつか削られているのです。たとえばオーディオトラック数が8つまでやMIDIトラック数が32までなどの制限があります。しかしこれは入門者にとって、そう気にしなくてもいい点ともいえます。ただし、大規模な編成の曲を作るようになってくれば、足りなくなってくるので、製品版へアップグレードすればいい、というものばかりです。

●無料で DTM !

DTM ソフトでもフリーの物もいくつかはあります。有名なものを紹介していきます。

自分でも探してみたりしたらいろいろ見つかるでしょう！

- ・ cherry <http://hp.vector.co.jp/authors/VA010012/>

Cherry は半音ごとの黒鍵・白鍵階段とノートの長さで視覚的に差曲できるので楽譜の読めない人やキーボードなどの演奏ができない人でも使えます。またノートは四分音符や八分音符といった、決まった長さにとらわれずにボタン一つで自由にできるのもこのソフトの特徴です。

- ・ Domino <http://takabosoft.com/domino>

Domino はピアノロールをメインとした MIDI 専用の音楽編集ソフトです。音楽は素人キーボードも弾けない楽譜も読めない DAW なんて高くて買えないなどの方をターゲットにしたフリーソフトです。